

## 第3章 一般施工仕様書

施しなければならない。

- (1) 植生状態は、植生面から 10m離れると、法面全体が「緑」に見え、植被率が 80%以上であること。
- (2) 植生面に 1 m四方以上の裸地が無いこと。
- (3) 草丈が 15 cm以上であること。

21 植生工の施工について、以下の作業手順を基本に行うこととする。

- (1) 受注者は、施工前に工程作成を行い、設計図書で条件明示された選定工法が、近隣地区の気象データ（平均値）に基づく施工完了期限までに施工可能か確認した上で、発注者に報告する。
- (2) 受注者は、施工前に現地試験を行い、表 3－3－7 「植生工法適応条件表」により、設計図書で条件明示された選定工法の妥当性を判断して、発注者に報告する。
- (3) 発注者が、施工時期及び選定工法について、問題のないことを確認した上で、受注者は、植生工の配合設計について、発注者の承諾を受ける。
- (4) 受注者は、現地外気温が、表 3－3－7 「植生工法適応条件表」にある施工適期の気温を満足するか確認した上で、施工する。

22 植生工の設計変更について、以下事項を確認して行うこととする。

- (1) 現地試験での現場条件が、表 3－3－7 「植生工法適応条件表」により、当初選定した工法と不整合の場合、植生工法について設計変更協議の対象とし、**必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を別途考慮すること。**
- (2) 発注者は、受注者の工程計画により、当初選定した選定工法が適期に施工できない部分があると判明した場合、原則として、当該部分の植生工を行わず設計変更により減工することとする。また、法面の土質によって、衣土（すき取り土）、ネット、シート等で侵食防止、排水処理等をおこない、越冬させること。

23 上記 1～22 によりがたい場合は、関係者で別途協議して対応する。

表3-3-7 植生工法適応条件表（1／2）

植生工	生芝	腐植酸種子散布工	有機材種子散布工	植生基材吹付工 (土砂系) t=3cm
適用土質	細粒分まじりれき 砂 (細粒分5～15%のS-E・S-EG)	細粒分まじりれき [GF]	細粒分まじりれき [GF]	れき(中れき粒径19mm)以下かつ 細粒分5～15%のS-E・S-ES 砂れき、細粒分5～15%のGS-E 細粒分まじりれき [GF] 砂 (細粒分5～15%のS-E・S-EG)
地盤材料の工学的分類法 (JGS 005-1-2020) の区分種名稱 (中分類記号) または (小分類記号) による 適応 条件	れき質砂 (細粒分5～15%のSG-E) 細粒分まじり砂 (SF) シルト [M] 粘性土 [C] 有機質土 [O] 火山質粘性土 (V)	細粒分まじり砂 (SF) シルト [M] 粘性土 [C] 有機質土 [O] 火山質粘性土 (V)	細粒分まじり砂 (SF) シルト [M] 粘性土 [C] 有機質土 [O] 火山質粘性土 (V)	れき質砂 (細粒分5～15%のSG-E) 細粒分まじり砂 (SF) シルト [M] 粘性土 [C] 有機質土 [O] 火山質粘性土 (V)
れき 含 有 量 <sup>注1</sup> <sup>2</sup>	0%～80%	0%～20%	0%～30%	0%～30%
土 壤 硬 度	10mm～27mm未満	10mm～23mm未満	10mm～27mm未満	10mm～27mm未満
勾 配	1.0割以上	1.2割以上	1.0割以上	1.0割以上
法面垂直高	—	30m以下	30m以下	80m以下
有 機 含 有 量	—	3%以上	3%未満	—
土 壤 酸 度 (H <sup>-</sup> /I <sup>-</sup> )	4. 0～6. 5 (k <sub>c1</sub> ) 4. 5～7. 0 (H <sub>2</sub> O)	4. 0～6. 5 (k <sub>c1</sub> ) 4. 5～7. 0 (H <sub>2</sub> O)	4. 0～6. 5 (k <sub>c1</sub> ) 4. 5～7. 0 (H <sub>2</sub> O)	4. 0～6. 5 (k <sub>c1</sub> ) 4. 5～7. 0 (H <sub>2</sub> O)
リン酸吸収力mg/100g中	1700以下	1700以下	1700以下	—
吹付用ホース延長 <sup>注3・6</sup>	—	0～200m	0～120m	0～80m
施工適期 <sup>注7</sup>	施工完了時期が日平均気温 -5℃以上までとする。ただし、凍 結している法面への施工は行わない こととする	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで

- 1) 土質分類の細粒分とは0.075mm以下のを通過する細粒土(シルト、粘土)の量をいう。
- 2) れき含水量のれきとは2mm以上5mm以下の粗粒土(れき、中れき、粗れき)をいう。
- 3) 適用可能な工法のうち経済的な工法を標準とする。
- 4) 現地調査の結果、当初選定した工法が本表の条件に合わない場合は、工法について設計変更し、必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を別途考査すること。
- 5) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準による選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。
- 6) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。
- 7) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データー(平年値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。
- 8) 人工芝を使用する場合は、日々の製品の品質と現場の土質、土壤に適応することを確認し使用すること。
- 9) 人工芝を使用する際の施工適期は、施工完了後から日平均気温5℃以上が60日間確保されるまでとする。

表3-3-7 植生工法適応条件表（2／2）

植生工	植生基材吹付工 (土砂系) t=5cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=3cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=5cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=8cm
適用土質	<p>軟岩 I 強風化・亀裂面風化 クラック間隔5cm未満 レキ最大粒径7.5mm (5%未満) れき [G]</p> <p>砂 [GS] 細粒分まじりれき [GF] 砂 [S] れき質砂 [SG] 細粒分まじり砂 [SF]</p> <p>シルト [M] 粘性土 [C] 有機質土 [O]</p> <p>火山灰質粘性土 [V]</p> <p>れき含有量<sup>注2</sup> 0%~50%</p> <p>土壌硬度 10mm~30mm未満 1.0割以上 1.0割以下 80m以下</p> <p>勾配 80m以下</p> <p>法面垂直高 80m以下</p> <p>有機含有量</p> <p>土壌酸度 (pH-) 4.0~6.5 (kcl) 4.5~7.0 (H<sub>2</sub>O)</p> <p>リン酸吸収力mg/100g中 0~80m</p> <p>吹付用ベース延長<sup>注5</sup> 5~6 施工適期<sup>注7</sup> 7</p>	<p>軟岩 I 強風化・亀裂面風化 クラック間隔5cm~15cm未満 レキ最大粒径7.5mm (5%未満) れき [G]</p> <p>砂 [GS] 細粒分まじり砂 [GF] 砂 [S] れき質砂 [SG] 細粒分まじり砂 [SF]</p> <p>シルト [M] 粘性土 [C] 有機質土 [O]</p> <p>火山灰質粘性土 [V]</p> <p>れき含有量 0%~50%</p> <p>土壌硬度 30mm以上 1.0割以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>勾配 30mm以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>法面垂直高 30mm以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>有機含有量</p> <p>土壌酸度 (pH-) 4.0~6.5 (kcl) 4.5~7.0 (H<sub>2</sub>O)</p> <p>リン酸吸収力mg/100g中 0~80m</p> <p>吹付用ベース延長<sup>注5</sup> 5~6 施工適期<sup>注7</sup> 7</p>	<p>軟岩 I・II 亀裂面風化 クラック間隔5cm~15cm未満 レキ最大粒径7.5mm (5%未満) れき [G]</p> <p>砂 [GS] 細粒分まじり砂 [GF] 砂 [S] れき質砂 [SG] 細粒分まじり砂 [SF]</p> <p>シルト [M] 粘性土 [C] 有機質土 [O]</p> <p>火山灰質粘性土 [V]</p> <p>れき含有量 0%~50%</p> <p>土壌硬度 30mm以上 1.0割以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>勾配 30mm以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>法面垂直高 30mm以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>有機含有量</p> <p>土壌酸度 (pH-) 4.0~6.5 (kcl) 4.5~7.0 (H<sub>2</sub>O)</p> <p>リン酸吸収力mg/100g中 0~80m</p> <p>吹付用ベース延長<sup>注5</sup> 5~6 施工適期<sup>注7</sup> 7</p>	<p>軟岩 II・中硬岩・硬岩 亀裂面風化 クラック間隔15cm未満 レキ最大粒径7.5mm (5%未満) れき [G]</p> <p>砂 [GS] 細粒分まじり砂 [GF] 砂 [S] れき質砂 [SG] 細粒分まじり砂 [SF]</p> <p>シルト [M] 粘性土 [C] 有機質土 [O]</p> <p>火山灰質粘性土 [V]</p> <p>れき含有量 0%~50%</p> <p>土壌硬度 30mm以上 1.0割以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>勾配 30mm以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>法面垂直高 30mm以上 0.8割以上 80m以下</p> <p>有機含有量</p> <p>土壌酸度 (pH-) 4.0~6.5 (kcl) 4.5~7.0 (H<sub>2</sub>O)</p> <p>リン酸吸収力mg/100g中 0~80m</p> <p>吹付用ベース延長<sup>注5</sup> 5~6 施工適期<sup>注7</sup> 7</p>

- 1) 土質分類の細粒分とは0.075mmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土)の量をいう。
- 2) れき含有量のれきとは2mm以上75mm以下の粗粒土(れき、中れき、粗れき)をいう。
- 3) 適用可能な工法のうち経済的な工法を標準とする。
- 4) 現地調査の結果、当初選定した工法が本表の条件に合わない場合は、工法について設計変更し、必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を引途考慮すること。
- 5) 植生工法の判定時に、「吹付用ベース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。
- 6) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。
- 7) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データー(平年値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。
- 8) 人工芝を使用する場合は、恒久的製品の品質と現場の土質、土壤に適応することを確認し使用すること。
- 9) 人工芝を使用する際の施工適期は、施工完了後から日平均気温5°C以上が60日間確保されると予想される時期までとする。